

2026 年 9 月 3 日

ENEOS 株式会社

日本製紙株式会社

ENEOS と日本製紙、第二世代バイオエタノール普及に向けた 包括的パートナーシップを推進

ENEOS 株式会社（以下、ENEOS）と日本製紙株式会社（以下、日本製紙）は、第二世代バイオエタノールの普及促進に向けた包括的パートナーシップを推進していくことに合意いたしました。

本パートナーシップでは、第二世代バイオエタノールの製造技術開発、原料調達および利用促進に関して両社が連携します。

バイオエタノールは、カーボンニュートラルの実現に向けて、自動車燃料や SAF（持続可能な航空燃料）、化学品用の原料など、様々な用途での利用が期待されています。我が国では、バイオエタノール導入拡大に向けた政策検討が進められており、2030 年度までに最大濃度 10%の低炭素ガソリン供給開始を目指すことが掲げられています。

これらの用途に活用されるエタノールのうち、糖類やデンプンを含む可食原料から作られる第一世代バイオエタノールに対し、木質資源や古紙といった非可食原料から作られる第二世代バイオエタノールは、CO2 排出量削減効果の向上に加え、食糧との競合回避や未利用資源の活用による原料調達の多様化が期待できます。

ENEOS と日本製紙は、これまでもこの第二世代バイオエタノールに着目し、製造および利用促進・拡大において、相互に協力してまいりました。

その一環としてこのたび、第二世代バイオエタノール製造技術の確立に向け、パイロットプラントによる実証運転を 2027 年度中に開始する予定です。

ENEOS は日本製紙富士工場内でのプラント建設を進めており、日本製紙はバイオマス原料の供給、富士工場の一部敷地の提供および実証プラントの運転を担当します。

また、第二世代バイオエタノールの製造および利用促進・拡大に加えて、その原料調達の可能性についても協力し、検討します。

ENEOS は、2025 年 5 月に公表した中期経営計画において、バイオ燃料等の事業に力を入れることを掲げています。第二世代バイオエタノール由来の燃料・原料の製造技術などの検討を通じ、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

日本製紙グループは、これまで培ってきた紙の原料となる木質資源に関する知見を活用し、「木とともに未来を拓く総合バイオマス企業」として、バイオリファイナリー構想のもと、脱炭素社会の構築や地球温暖化対策に貢献してまいります。



両社は、本パートナーシップを通して第二世代バイオエタノールの普及につなげるとともに、2050年度カーボンニュートラル実現に向けて、トランジションとサーキュラーエコノミーに資するエネルギー・素材の供給に向けた取り組みを加速します。

<本件に関するお問い合わせ先>

ENEOS 株式会社 広報部メディアリレーショングループ

(メール) pr@eneos.com

日本製紙株式会社 総務・人事本部 広報室

(メール) pr@nipponpapergroup.com